

●小学生低学年の部

富士南小学校 1年 渡井 虎白

『 げすいどうのひみつ 』

ぼくは、あらいものをしていて、せんざいやあぶらやきたない水は、どこにいくのかふしぎにおもいました。そこでぼくは、三つよそうをかんがえました。

一つめは、キッチンにあるしょっきをあらいおわったときに出るあわやせっけんは、マンホールの中に入ってながれていくとおもいました。

二つめは、きたない水はマンホールからどんだながれて、川へいってしまいます。すると、川の水がよごれてしまいます。そうすると、川にいるさかなによごれがついて、あぶらがかたまって、しんでしまうかもしれないということです。

三つめは、たくさんあぶらをたべたさかなをりょうしさんがつってそのさかなをうってしまったとき、そのさかなをかった人がびょうきになってしまうということです。

ぼくは、この三つよそうがあるかインターネットで下水しよりじょうのしょうかいどうがを見てたしかめてみました。

わかったことは、だいどころから出るきたない水は、マンホールから下水どうをとおって下水しよりじょうにおくられるということです。下水しよりじょうは、水をきれいにするところです。水をきれいにするために、びせいぶつといういきものをつかって、目に見えないゴミをたべてきれいな水にしてもらいます。びせいぶつがなぜゴミをたべることができるのかふしぎにおもいました。

ぼくがしんばいしていたのは、水がよごれてさかなたちがびょうきになってしまい、そのさかなを人がたべてしまうことです。

でも、下水しよりじょうのおかげでさかなをあんしんしてたべることができます。

ぼくは、下水しよりじょうがあってよかったなとおもいました。